

平成26年5月11日(日)

しもみずしいせき 下水主遺跡現地説明会資料

調査場所 城陽市水主倉貝・宮馬場

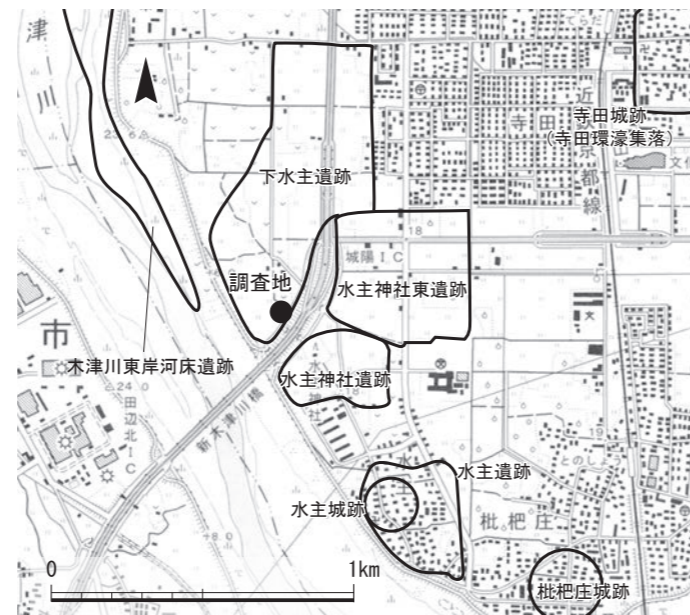
調査期間 平成24年5月21日～平成26年5月29日(予定)

公益財団法人 京都市埋蔵文化財調査研究センター
〒617-0002 京都市向日市寺戸町南垣内40-3
URL <http://www.kyotofu-maibun.or.jp>

1. はじめに

下水主遺跡は、木津川右岸の低地に位置する南北約 980m、東西約 540mの範囲に広がる縄文時代から近世にかけての集落跡で、周辺には、水主神社東遺跡や水主神社遺跡、水主遺跡などの遺跡とともに中世城館跡である水主城跡があります。平成 24・25 年度の発掘調査では、弥生時代後期の竪穴建物や古代の掘立柱建物、中世から近世の島畑などが見つかりました。

今回の調査地は、下水主遺跡の南部に位置し、地形的には木津川沿いに形成された微高地上に立地します。



第1図 調査地位置図および周辺遺跡分布図(1/25,000 宇治)

の跡が見られることや溝底がほぼ平坦であること、南側に比べて北側斜面の立ち上がりが急であることなどから、大規模な改修が加えられていると考えられます。溝1は調査地からさらに東・西に延びていきます。埋土の堆積状況から東から西へ向かって水の流れが観察できることから、溝の西端は木津川に合流していたと考えられます。しかし、東はどこまで延びていたのか不明です。

溝1の下層からは、木材や木製品などとともに古墳時代前期(庄内式～布留式)の土師器が多数出土しました。土師器は、溝の南側斜面を中心に、完形の壺・甕・小型丸底鉢・器台などが出土しました。甕には煤がついているものが多く、煮炊きに使われたことがわかります。小型丸底鉢や器台は供え物を盛る器で、祭祀に用

いられることの多い土器です。木製品には椀や鉢・盤(大きな皿)などの実用品がありますが、多くは破損しています。このほか、陽物形木製品といった祭祀に用いられたものも出土しました。

溝1は、古墳時代中期末ごろに再び大きく掘りなおされましたが、護岸のための杭などは見られませんでした。掘りなおされた溝の中からは少量の須恵器のほか、子持ち勾玉などが出土しました。

後期にはほとんど埋まってしまい、最終的には飛鳥時代の土器を含んだ地層で覆われていました。

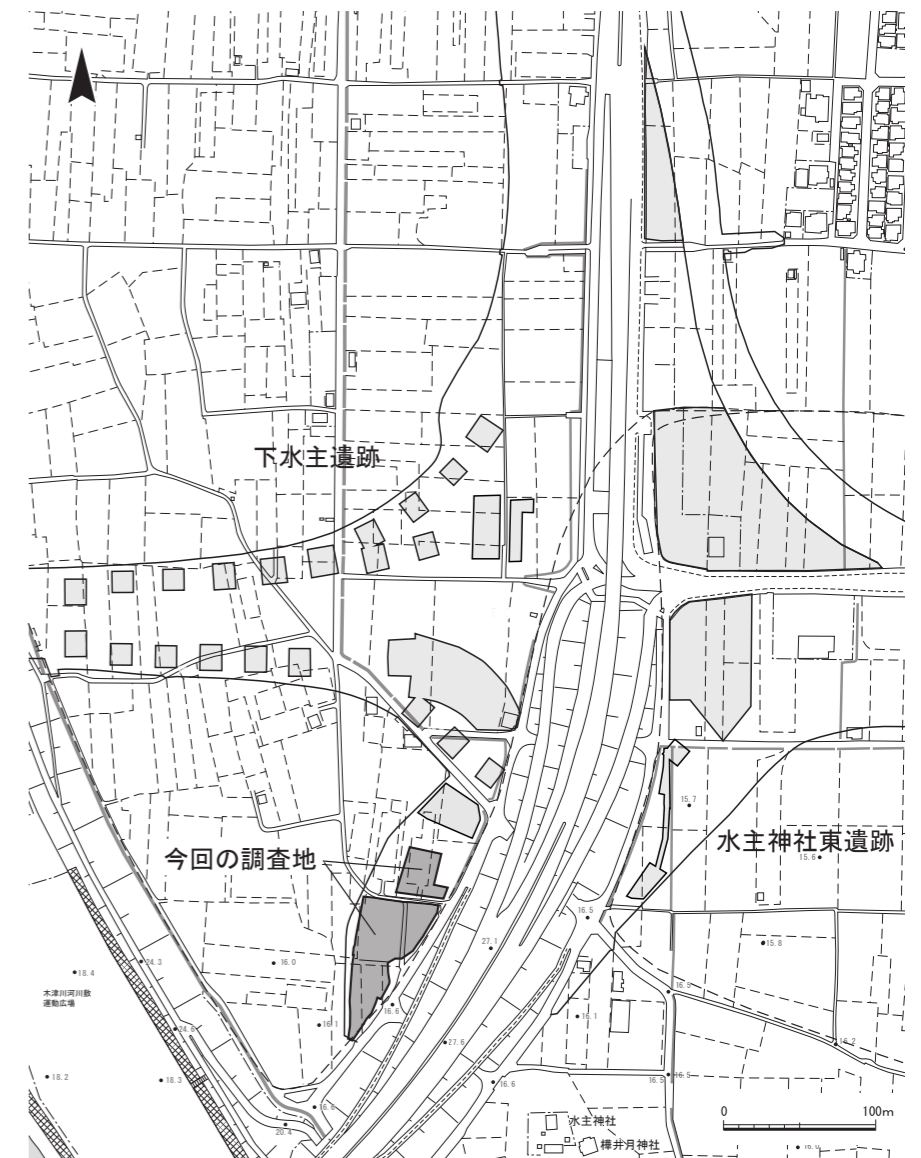
③飛鳥時代 土坑3基、溝3条、井戸1基、柱穴300基以上などが見つかりました。須恵器や土師器などが出土しました。

④中世～近世 島畑が合計7つ見つかりました。島畑は南北に長い短冊状に造られていました。

3. まとめ

①古墳時代前期の大規模な溝を確認しました。当時の大規模な溝としては大阪府八尾市久宝寺南遺跡や大阪市加美遺跡など、大阪平野にかつて存在していた河内湖周辺の水上交通との関わりの深い遺跡で見つかったものが有名です。これらの溝は、幅が5～10m、深さが1～1.5mで、溝1はこうした溝の中でも、最も大きい部類に入ります。

溝1では、人工的に開削され、規模が大きく、掘りなおして継続的に使用されたと見られることや、木津川に合流していることから、舟を使用した物資の運搬が行われていた可能性があります。さらに木津川をはじめとする淀川水系の河川交通網とつながっていたと考えられます。



第2図 下水主遺跡周辺のこれまでの調査地(1/5,000)

城陽市域では、溝1が掘削された古墳時代前期には、芝ヶ原古墳や梅ノ子塚1号墳などの古墳が築造されます。今回確認した大規模な溝は、こうした古墳を造営した首長が維持・管理し、物資の運搬等に利用した水路の可能性が考えられます。

②飛鳥時代の遺構として、調査地の南部で多数の遺構が見つかりました。建物としてのまともはありませんが、出土した遺物から、飛鳥時代に集落が広がっていたと推定されます。

③新たに弥生時代中期の遺構や遺物が見つかりましたが、その広がりについては今後の検討課題です。

④中世以降の島畑を確認しました。下水主遺跡周辺が古くから広く耕作地として利用されていることが改めてわかりました。



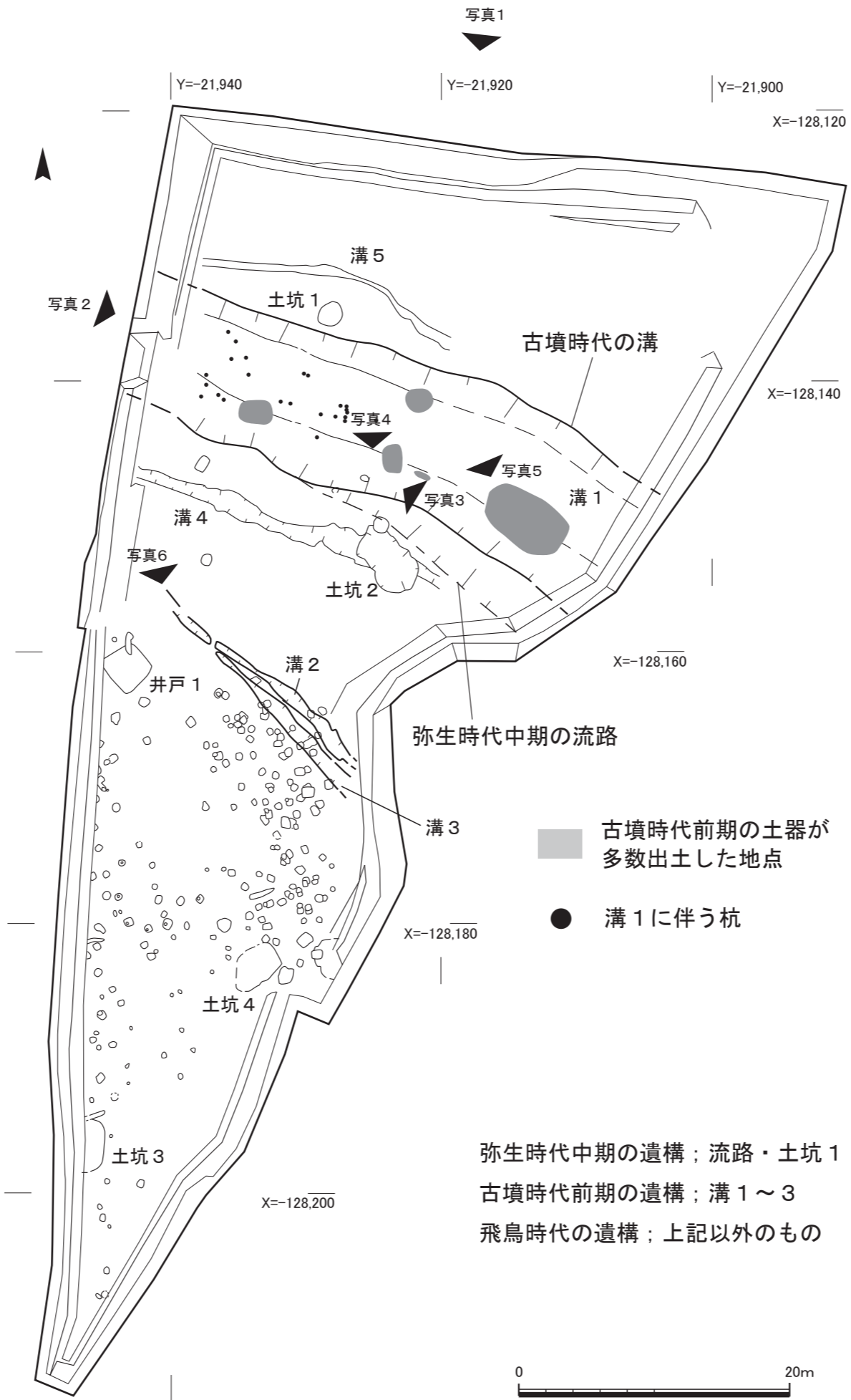
写真1 調査地南部全景



写真2 溝1全景



写真3 溝1堆積状況



第3図 主要遺構配置図



写真4 溝1木製品（^{かい}櫓）出土状況



写真5 溝1土器出土状況（南岸）



写真6 飛鳥時代遺構群全景